

費用面や地域の格差 課題解決の考えは

原 裕司議員



利用ニーズを把握し利便性を高めていく
総務部長

問 市民の移動手段である巡回バス乗車の目的地や利用頻度から見る評価は。

答 入浴施設のある老人福祉センターや買物などを目的とする高齢者をはじめ、交通弱者にとって日常生活に重要不可欠な移動手段と考える。

問 各地区の乗車率等から算出した一人当たりの運行コストでは、佐屋東

ルート524円、立田ルート2583円と約5倍の差がある。空車運行を目にするが、費用面や

答 乗降客の利用状況は、日々同一ではない。巡回バス運行検討委員会では、運行や利用ニーズの把握に係る協議を進めている。本市を取り巻く社会情勢

に

の変化などを含め利用者の利便性を高めていく。

問 高齢者の移動手段である高齢者福祉タクシー料金助成事業では、各地区とも申請したが未使用者が40%前後と二番多いその要因は。

答 「免許証は所持していても使う予定はないけども」もしくは「時間がなかった」といった、「行き先が限定されていることを知らなかった」との声がある。

問 移動手段を検討する場合、高齢福祉課、総務課等の各課の連携は。

答 高齢化社会の進展により、交通弱者は増加傾向にある。利便性の高い移動手段を確保することは重要な課題と認識している。

巡回バス運行検討委員会では、高齢福祉課、社会福祉課、愛西市社会福祉協議会の職員が参画各サービスの実施状況なども考慮し協議を進めている。

停留所乗車数(利用目的)			
	1番目	2番目	3番目
佐屋西	佐屋老人福祉センター	ピアゴ佐屋店西	ヨシツヤ佐屋店
佐屋中央	佐屋老人福祉センター	ヨシツヤ佐屋店	愛西プラザ
佐屋東	佐屋老人福祉センター	富吉駅	愛西市役所
立田	愛西市役所	立田北部コミュニティ	ヨシツヤ佐屋店
八開	佐織総合福祉センター	八開総合福祉センター	立田北部コミュニティ
佐織北	ヨシツヤ平和店	佐織総合福祉センター	セントレー佐織西
佐織南	佐織総合福祉センター	藤浪駅	草平団地

▲利用頻度が多い停留所(赤：入浴施設 青：買い物)

問 福祉タクシー券の使用目的は、行き先も限られている。また、24枚使い切った方も2番目に多い状況だ。用途の拡大や利用枚数の限度の検討は。

答 介護予防の観点から「外出支援」の一つであり、令和6年度に向け、他の制度との関連や統合等も含め調整している。